

社会保障審議会医療保険部会 提出資料

2025年11月20日

一般社団法人 全国がん患者団体連合会(全がん連)

一般社団法人全国がん患者団体連合会(全がん連)について

- 「がん」と一口にいても、その病態や治療、患者や家族の悩みや苦痛は異なる面も多く、がんの種類や地域ごとに多くのがん患者団体がそれぞれの課題の解決に向けた取り組みを行っています。一方で、がんの種類や地域を問わず、がん全体における共通した課題も存在することから、多くのがん患者団体がそれぞれ独自の取り組みを行いつつ、共通した課題の解決に向けて連携した取り組みを行うことが求められています。
- この連携を行うため、「各地のがん患者団体が情報や経験を共有し、それぞれの活動をより良いものとしていくこと」「それぞれのがん患者団体の取り組みや考えを尊重しつつ、賛同できる場合には共に連携して取り組みを行うこと」「これらの取り組みを継続かつ安定して行うために、一定の法人格をもった団体を設立すること」が必要と考えられました。
- そこで、全国のがん患者団体の連合体組織として、がん患者団体の連携や活動の促進を図りつつ、がん患者と家族の治療やケア、生活における課題の解決に取り組み、がん医療の向上とがんになっても安心して暮らせる社会の構築に寄与することを目的として、非営利型の一般社団法人である全国がん患者団体連合会が、2006年にがん対策基本法が成立してから10年の節目となる2015年に設立され、現在51の加盟団体、加盟団体の会員総数はおよそ2万人です。



首相官邸ホームページより

高額療養費とOTC類似薬を利用する乳がん患者さんの例(加藤那津さん・愛知県在住)



- 2009年5月 31歳のとき、胸の痛みを感じて超音波検査を受け、乳腺症と診断される
- 2009年8月 乳がん検診(マンモグラフィ検査)で石灰化を指摘され、大学病院に紹介され針生検で偽陽性と診断
- 2009年9月 若年であることと家族歴から、乳房の切除生検を行う。
- 2009年10月 切除生検の結果、乳がんと確定診断(ホルモン受容体陽性HER2陰性、ステージ0)、乳房温存手術を受け、術後に放射線治療と乳がんに対するホルモン療法(内服)を開始。
- 2013年8月 乳房に痛みとしこりを感じ、局所再発と診断。手術で乳房を全摘し、同時再建。遺伝性のがんを疑い検査の結果、BRCA2陽性、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)と診断。術後に乳がんに対するホルモン療法(内服+注射)を開始。ホルモン療法に伴う更年期症状に悩まされる。
- 2016年7月 吐き気が続き検査の結果、肝臓に多発転移が見つかる。
- 2017年3月 名古屋ウィメンズマラソンに出場して腸骨骨折。
- 2018年4月 乳がんに対する薬物療法(アバスチン+パクリタキセル)を開始。
- 2019年2月 乳がんに対する薬物療法(リムパーザ)を開始(現在も継続中)。
- 2019年9月 検査の結果、骨転移が見つかる。乳がん骨転移に対する薬物療法(ランマーク)を開始するも、その後複数回の骨折を経験する。
- 2022年4月 閉経したが、ホルモン療法中より更年期症状は軽いと感じた。
- 2023年5月 左大腿骨が骨折手前になり、骨折を予防するための手術を受ける。
- 2024年6月 遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)に対する予防的卵巣・卵管摘出術を受ける。

(※)治療歴については過去のことであるため、薬剤や治療歴について一部記憶違いなどが含まれる可能性もあります。

高額療養費とOTC類似薬を利用する乳がん患者さんの例(加藤那津さん・愛知県在住)



- 2009年1月 交通事故に遭い、交通事故の後遺症で強い疼痛を感じ、経口のNSAIDs(非ステロイド性抗炎症薬)を開始。
- 2009年9月 乳がんのため手術を受け、交通事故の後遺症に加え、乳がん手術に伴う疼痛も感じるようになる。
- 2010年2月 疼痛治療のため、ペインクリニックの受診を開始。
- 2012年5月 再び交通事故に遭う。
- 2012年8月 交通事故の後遺症と乳がん術後の疼痛のため、医療用麻薬の内服開始。
- 以降、交通事故と乳がん治療に伴う疼痛管理のため、以下の薬剤を順次、使用する。
 - ロキソニン
 - ボルタレン
 - リリカとトラムセット(最大量)
 - モルヒネ
 - アセトアミノフェン(最大量)【OTC類似薬】(疼痛管理のため、現在も使用)
 - ロキソニンテープ【OTC類似薬】(疼痛管理のため、現在も使用)
 - 酸化マグネシウム【OTC類似薬】(医療用麻薬や分子標的薬に伴う便秘対策のため、現在も使用)

(※)治療歴については過去のことであるため、薬剤や治療歴について一部記憶違いなどが含まれる可能性もあります。

【OTC類似薬に関する議論について】

- 乳がんに対する治療薬と疼痛管理のための痛み止めで、長期にわたり継続して高額療養費を利用しているが、このうちOTC類似薬である痛み止めが保険から外れてしまうと、高額療養費の対象にもならず、経済的負担がかなり大きくなってしまわないか。
- OTC類似薬が保険から外れてしまうと、どういう取り扱いとなるかがはっきりせず、制度面での不安も大きい。
- 高額療養費を利用して、高い薬をずっと使い続けていることについて、制度には心から感謝しているが、私が乳がんの治療を続けることは社会にとって良いことなのか。治療を続けることは自分のエゴではないかと悩んでいる。

OTC類似薬の保険給付の見直しに関する今後の社会保障審議会医療保険部会での議論について

- 「OTC類似薬を公的な保険給付の対象から外す」ことについては、以下の理由からがんや難病などの疾患の患者にも与える影響が大きく、避けるべきである。
 - OTC類似薬を日常的に、あるいは長期にわたり継続して、医療機関で使用しているがんや難病の患者がいること。
 - 公的な保険給付から外れてしまうと、下記厚生労働省の資料例によれば、メーカー希望小売価格と比較した場合には、相当程度の過重な負担増(およそ数十倍)であり、市場価格の最安値と比較した場合でも、過重な負担増となる可能性がある。
 - 公的な保険給付から外れてしまうと、高額療養費、指定難病患者への医療費助成、こども医療費助成、小児慢性特定疾病児童等への医療費助成など、各種の医療費助成の対象とならなくなり、過重な負担増となる可能性がある。
 - 医療機関への受診機会の喪失、あるいは遅延が生じ、健康被害が生じる可能性がある。
- 医療保険制度改革全体の中で十分に検討してもなお、OTC類似薬の保険給付の見直しが必要との結論に至った場合には、「公的な保険給付の対象としつつ、患者の自己負担割合を変更する」ことで対応することを検討すべきである。
 - 「公的な保険給付の対象から外す」よりは、市場価格ではなく公的な薬価が維持されることで、患者の負担増は一定程度抑えられ(およそ数倍)、高額療養費や各種の医療費助成の対象であることも維持され、医療機関への受診機会も確保される可能性がある。
 - しかし、患者の自己負担割合の変更でも、患者の負担増となることは避けられず、いわゆる「処方シフト」(患者負担割合はより安価であるが、薬価がより高い薬剤が処方されるようになること)などの問題が生じる可能性も、依然として残る。

	医療用医薬品※1			OTC医薬品
	品目	薬剤費※2	患者自己負担(3割)	薬剤費※3
花粉症薬	フェキソフェナジン 錠剤 60mg 14日分	291.2円～803.6円	87.4円～241.1円	743円～2,075円
湿布薬	ロキソプロフェンナトリウム水和物 テープ 50mg 14枚	177.8円～180.6円	53.3円～54.2円	525円～1,958円
総合感冒薬	非ピリン系感冒剤 散剤 8日分	156.0～218.4円	46.8円～65.5円	1,634円～2,343円
解熱鎮痛薬	ロキソプロフェンナトリウム水和物 錠剤 60mg 4日分	121.2円	36.4円	299円～768円

出典：厚生労働省第202回社会保障審議会医療保険部会(2025年11月6日)資料より

【仏国の例】～薬剤の種類に応じた患者負担割合の設定～		
抗がん剤等の代替性のない高額医薬品		0%
国民連帯の観点から負担を行うべき医療上の利益を評価して分類(医薬品の有効性等)	重要	35%
	中程度	70%
	軽度	85%
	不十分	100%

出典：財務省財政制度分科会(2025年11月5日)資料より